

NO.189

全 仏

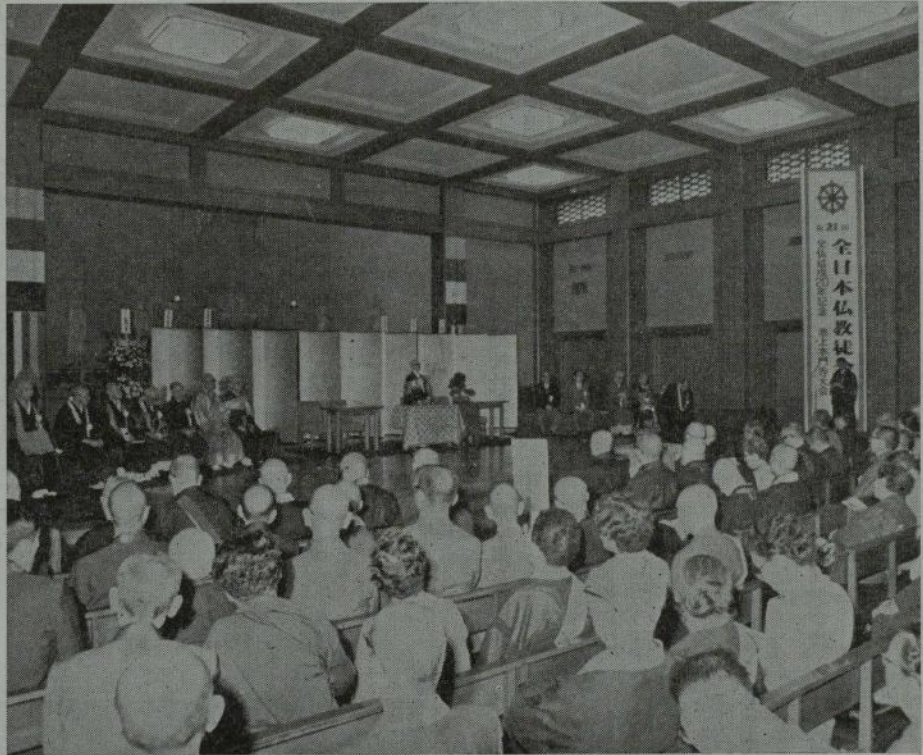
7 / 48

第21回

日本
仏教
徒会
議

全
仏
結
成
20
年
記
念
池
上
本
門
寺
大
会

開
◀



(式辞を述べられる大会総裁佐藤泰舜殿下
— 6月26日・池上本門寺本殿)

昭和48年7月1日

危機打開へ仏教精神結集

第二十一回全日本仏教徒会議・全仏結成二十年記念池上本門寺大会は、「人類の危機を救おう、仏教で」のスローガンのもと、六月二十六・七日の両日、池上本門寺本殿、朗峰会館を会場に約一千名が結集して開催され、アジアの開発と平和の確立、環境保全等の社会問題をはじめ、仏教界が当面する諸問題について仏教徒が如何に対処していくべきかが真剣に話し合われた。今回は特に、宗派代表者会議、都道府県仏教代表者会議の開催、問題別の部会開設等、会議中心に進められ、人類の危機のこの難局を打開するための仏教徒の姿勢について宗派代表者会議より声明書が発表されるなど、各方面より注目をあつめ大きな成果をあげた。

大会第一日は午前十時より大会式典で幕を開け、金子日威親下を導師に全仏結成以来の関係物故者の追悼法要が営まれたあと、大会総裁の式辞、全仏理事長（代理）、東仏会長、本門寺貫首の挨拶がそれぞれなされた。

さらに、全仏結成以来全一仏教運動に功績のあった百数十名の表彰が行なわれ代表として二十二鉄鏡師に感謝状が手渡された。また、昨年度大会の青森県仏（東師）に感謝状が、国際仏教興隆協会（巖谷師）に日本寺落成祝賀の金一封が、ベトナム難民救済委員会（黒田師）に救済金がそれぞれ贈呈され、最後に、来賓の橋本自民党幹事長、文部大臣（代理）の祝辞があつて式典を終了した。

ひきつづき総会に移り、議長に渡部公允、副部長に貝山宣泰、東義寿、小熊寛澄の各師を選出して、議事運営についての説明、議案上提、部会配属を行なつて、午後から各部会に分れて討議に入つた。

第二日は、午前十時から総会が開かれ宗派代表者会議、都道府県仏代表者会議および五つの部会の報告がそれぞれの部長より発表されたあと、総括して質疑が受けられた。

時間的制約もあつたが、第一部会の国際関係に集中し、国際関係の諸議案について全仏はどのように対処するかを質問をうけて、全仏当局より全仏内に準備委員会を設置する旨回答された。また、追

加五号については、すでに関係者によって整備されつつあるとの発表もあり、種々活発に熱の入つた質疑応答がくりひろげられた。

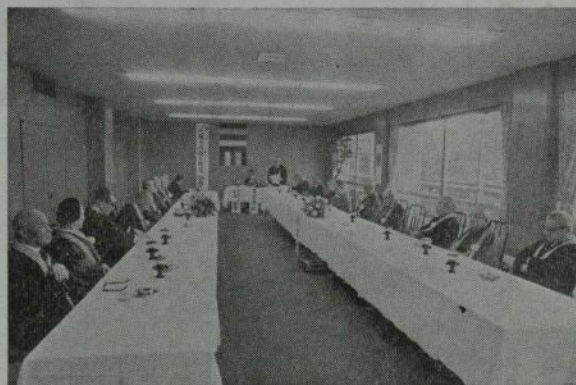
ここで採決に入り、満場一致の賛成を得て、全議案を各部会へ承通り採決した。つづいて、大会宣言および決議文をそれぞれ採択して本大会を閉会した。

宗派代表者会議

福祉社会の建設、声明書を発表

今大会はじめての催しであるが、大会テーマをそのまま議題に、この危機に仏教徒は如何に対処すべきかを、出席の日蓮、高野山、豊山、大谷、浄土、田寛寺、和宗、浅草寺、御室、孝道教団、融通念仏、時宗、向嶽寺、聖徳宗、念法真教の各宗管長、宗務総長が論じた。

前段として長岡昌NHK解説委員が環境破壊、自然破壊、エネルギー危機、人口増加、異常気象等を挙げて現状を解説したが、最後に「地球全体の環境問題はわれわれ人類が被害者であり同時に加害



宗派代表者会議 孔雀の間

者であるという考えで取り組んでいかねばならない全人類の問題で、その辺について宗教者の話し合い、活躍を期待したい」と結んだ。

そのあと金子日蓮宗管長を座長に討議されたが、「人間の何が加害者であるかというに、それは人間の欲望であり、仏典にもかなう少欲で満足していくという姿勢を積極的に打ち出していくことが、科学者の研究等とあいまって役立つのではないか」、「電気、水道をはじめ日常生活での消費節約が、ひいては環境保全につながるのではないか」さらには「環境破壊、公害、あるいはエコノミックスニマルと、人間的には精神の荒廃がこれ

らの結果をもちにあらしたものであり、これを鑑みるに仏教者は青少年の教化育成に力を注ぐことが重要である」等と意見が述べられ、さらには具体的に大都市寺院における緑化運動の展開、公害防止への協力等、意見の開陳がなされ、最後に声明書を発表して閉会した。

なお、出席者から特に、今後こういう会を年に何回か、東西交互に開催し、宗派代表者が枠をぬぎ胸襟を開いて全一仏教運動を推進しなければならぬという要望が強く出された。

◎宗派代表者会議声明書

人類が今や滅亡の危機に当面しようとしていることは、多くの識者が警告しているところであります。すなわち、環境の汚染、地球資源の枯渇、人口の急激な増加に伴う食糧の不足は深刻な問題となりつつあります。

われわれ仏教徒が「人類の危機を救おう、仏教で」のスローガンのもとに今回の会議を開いたのは、いたずらに事態を誇大視するのではなく「かけがえのない地球と生命の広場を」守るためにすべての人間が真剣に取り組まなければならぬと痛感したからであります。

仏教は申すまでもなく、すべてのものをありのままに見て、人間の真実のあり方を求め、世のため人のために尽すのを本分としております。しかしながら、今日の仏教が人類社会の要望に対して十分の責務を果たしているとは申し難く、内に深く反省しているのでありますが、一般

社会においても、今日の難局を打開するために、仏教を正しくとり上げ、その精神を社会の隅々まで生かすよう期待してやみません。

今次の大会において、全仏加盟宗派の代表者が集まり、会議を開いて種々討議した結果、各宗派としても真剣に現代社会の諸問題と取り組んで、福祉社会の建

都道府県仏教会代表者会議

「全一仏教運動の昂揚と組織強化」をテーマに、東京、北海道、大阪、京都、青森、山形、福島、栃木、群馬、埼玉、千



県仏代表者会議―鳳凰の間

設に役立ち、恒久の平和を確立して人類の危機を克服するため、全一仏教運動を強力に推進することを誓うものであります。

昭和四十八年六月二十六日

第二十一回全日本仏教徒会議

宗派代表者会議

葉、神奈川、山梨、静岡、岐阜、長野、新潟、香川の各代表が出席して、栗本東仏会長を座長に熱の入った討議がなされた。

その主なるものを挙げると、第一に、

地方仏教会の結成と宗派教団との協力関係について。第二に、この情報化時代に即して仏教界の広報活動の強化が強調された。一例として機関紙「全仏」の内容充実と末端組織までの浸透が要望された。第三に、未加盟県仏の結成ならびに加入。全国地域割によるブロック会議の開催徹底がさげられた。第四に、僧俗一体の全一仏教運動推進のため、檀信徒会議の結成の必要性があげられた。第五に仏教的運動については、たとえば生命尊重の問題、交通問題等は一派宗派の問題ではなく、仏教界全体の共通課題として全国の仏教会において同時に同方向をもって展開しなければならぬ。第六に、各県仏教会においても、住職主管者の共済制度をもっと確立すべきである。等の問題がそれぞれ出され、熱心に話し合われ総会に報告了承された。

第一部公

「アジアの開発と平和の確立について」

部会長 金岡秀友

副部会長 田中定完

問題提起者 金岡秀友

議事運営 主査 伊東堅純

同委員 鎌田良昭、門屋大寿

一号議案「アジア仏教圏へ日本仏教使節団を派遣しよう」

提案団体 孝道教団

理田説明者 椎谷 健

仏教徒としてできる具体的な実践運動として、アジアの仏教国（政治体制を問わず）へ使節団（親善）を派遣し、

各国の実情を視察し、親善交流を深め協力体制を確立すべきである、という

提案趣旨で本件を了承。

二号議案「釈尊成道の聖地に日本寺を完成し、アジア仏教徒との交流を密にする

とともに協力して人類の繁栄と平和に貢献しよう」

提案団体 国際仏教興隆協会

理田説明者 巖谷勝雄

もっとも具体的な問題の継続的提案であり、了承された。さらに実質化のために継続して援助することが確認された。

三号議案「ベトナム仏教徒を支援し、交流を深めよう」

提案団体 近代仏教研究会

理田説明者 松井勝重

和平協定が成立したとはいえ、平和、自由、統一への道はまだまだ険しい。

ベトナムに於て自由と平和を希求している仏教徒を広く支援する活動を強化し、交流を深めようとの提案。その中で南ベトナムの「虎のオリ」に取容されている僧侶を含めた政治犯の即時釈放のよびかけをしようという提言がなされたが、ニュースソースの違いにより確認のすべがない等の意見も出て採択の段階に於て、この政治的問題は理由として添付されたこと、さらにそれらの資料が日本山にあることを了承した上で、議案に提示された範囲内において承認された。

四号議案「アジアの開発と平和の確立の

ため、日本でアジア仏教徒会議を開催しよう」

提案団体 真言宗豊山派
理田説明者 浅井堅教

開発平和には政治経済的な対立が含まれ、政治体制の異った国との接触交流には様々な困難があるので（モンゴルのアジア仏教徒平和推進委員会との交流も提案された）今後、全仏において提案団体とも話し合い、これが具現化のために準備調査等十分なる検討をしてもらふことを含みに了承された。

第一部会

「環境保全と福祉社会の建設について」

部長 真溪義賢
副部長 藤沢由徳、小峰順普
問題提起者 真溪義賢
議事運営 主査 椎谷 健
同委員 花山勝友、石上慈敬
提案団体 和宗四天王寺
理田説明者 塚原徳広

一号議案「社会福祉と仏教的対策」

従来の唯物主義を中心とする世界観を生命尊重主義に転換して、仏教的価値観を確立し、その全仏教的基本に立って啓蒙宣伝を中心として一大宗教運動（生命の尊重、本有仏性）を展開しようという提案趣旨で、了承された。

二号議案「環境保全のために緑化運動を推進しよう」

追加五号議案「モンテンルパの日本人処刑者墓地を日本人の手で整備しよう」

提案団体 青森県仏教会
理田説明者 船水徳明

日本人戦犯八十六柱の墓地が荒廃しているとの説明がなされたが、フィリピンの対日感情も考え、安易な戦争の回想や慰霊に終ることないよう、戦犯ということに対しての仏教徒あるいは日本人としての反省を重ねた上で、仏教徒としてこれを慰霊することの必要を了承した。

提案団体 聖観音宗浅草寺

理田説明者 塩入亮達

理想よりも仏教徒として具体的にして

第三部会

「これからの布教伝道について」

部長 丸山日雄
副部長 村野宣忠、若林隆光
問題提起者 長谷川正徳
議事運営 主査 新川日見
同委員 西村輝成

一号議案「教学と教団の関係を通してきびしく自己批判しよう」

提案団体 日蓮宗
理田説明者 長谷川正徳
教学（宗義学）の封鎖性と教団の現実遊離を指摘し、教学は信仰にもとづいて形成されるべきであり、その原点に還帰して、その新しい教学から導き出



第一 部 会



第二 部 会

された新しい布教体系を作り上げるべく、教団も教師も自己批判した上で、新しい教化伝道策と取組まねばならないという提案説明があつて、了承された。

二号議案「寺檀の本来的あり方を樹立しよう」

提案団体 真言宗智山派
理由説明者 岡田昌道

葬式法要の結びつきの現状から脱皮して、少くとも結婚式のような人生の通過儀式の形の上での仏教的な形を整え寺檀の本来的結びつきをしなければならぬ。その具体的な方法として、檀徒総代の全国的組織を確立して能動的にこの通過儀式に参加させるべきであるという提案であり、了承された。

三号議案「全一仏教的な布教活動を推進しよう」

提案団体 天台宗
理由説明者 浜名徳有

一宗一派の愛宗護法の布教活動から早く脱皮して、宗派を越えた運命共同体として、大衆に対し心のセールスマンとして同一步調で現代社会と一体の新しい実践布教を推進しようという趣旨で、そのために現代布教連絡協議会(仮称)を設置することを提案して、了承された。

四号議案「僧衆一体の同行布教を展開しよう」

提案団体 高野山真言宗
理由説明者 新居祐政

心を生産する場合は寺院であり、その生産者は住職教師であるとの自覚と啓蒙の喚起。出家主義偏重の教団組織を改善して檀信徒の組織強化。理論のみの先行した従来の布教方法を反省し、僧衆一体となつて行なう同行布教の実践の三点を要旨に、具体的には詠歌、参拜団の組織など、僧侶と檀信徒が同一行動をとりながら僧侶自身の身をもって布教を展開しようとの提案で了承された。

五号議案「仏教的社会教育運動を展開しよう」

提案団体 福岡県仏教連合会
理由説明者 花田英忠

具体的には、音楽教室、子供会、学習



第三部会

塾等々地域社会教育に仏教的な方法を取り入れて青少年教育に当るべきであるという提案で、現に実践されている事例をあげて説明がなされ、了承された。

六号議案「布教プロジェクトチームを組織しよう」

提案団体 臨済宗妙心寺派
理由説明者 竹中玄鼎

布教を充実推進するために、檀信徒の中から専門知識をもつた有力な人々を幅広く参加させた布教プロジェクトチームを、各寺々に作り、対社会的機能のな布教方法を取り上げようとの提案で、全仏にこのプロジェクトチーム作りのリーダーシップを取ってほしいとの要望事項を付帯して了承された。

第四部会

「時局対策について」

部長 神野真一

副部長 石谷智範、花木義光

問題提起者 河和田唯賢、郡司博道

古屋道雄

議長運営 主査 郡司博道

同委員 岩本英樹、島田喜久子

一号議案「仏教徒アピール委員会(仮称)を設置しよう」

提案団体 東京都仏教連合会

理由説明者 郡司博道

過去に、仏教界の不利益になるような法改正や、仏教的立場を否認するよう

第四部会



な事象や報道がなされても、全仏として対社会的意見の発表がなされない。そこで単位法人の権益擁護のため主張する機関を設置しようとの提案。

時を同じくして全仏に機関決定によりアピール委員会が設置されたので、形而上的な事点でのアピールだけでなく本案の権益擁護の問題もその委員会できり上げてほしいとの要望を付帯して了承された。

二号議案「現下の幼児教育問題について」

提案団体 真宗大谷派

理由説明者 五島宗宣

幼児教育そのものの問題ではなく、幼児教育施設の運営問題についての提案で、学校法人立でない私立幼稚園にも

公の助成および融資が受けられるよう
法改正の実現を期そうという趣旨にお
いて了承された。

第五部会

「全一仏教運動の推進について」

部長 板橋宥成

副部長 須賀昭海、岩崎宗秀

問題提起者 中村啓誠

議事運営 主査 船口暉子

同委員 井上日宏

一号議案「仏教青年の結集を計ろう」

提案団体 全日本仏教青年会

理由説明者 増田貞円

以前にも提出されたが、予算を伴う関
係から仲々実現されず、再提案された
もので、各宗派の青年会と都道府県仏
教における青年会が共に一つになって、
全一仏教運動を推進していこうという
趣旨で、了承された。

二号議案「各都道府県仏教会の檀信徒会
幹部研修会を開催しよう」

提案団体 岐阜県仏教会

理由説明者 若染一雄

提案団体ではすでに県内の研修会を開
催して研究を重ねており、そこで檀信
徒会を組織している都道府県仏の合同
の幹部研修会を全仏で計画してほしい
との趣旨で、さらに檀信徒会をまだ組
織していない県仏でも、そういう準備
のための研修会を開くよう要請された
もので、了承された。

追加三号議案「仏教婦人連盟の使命」

提案団体 全日本仏教婦人連盟

理由説明者 山本スギ

議案というよりも、従来、家庭人とし
て社会人として教化活動、社会事業に
全一仏教運動を展開してきた婦人連盟
の方々がさらに一層、この結成二十年
の大会を期して、心を新たにこれを推
進していこうという決意を披瀝して協
賛を求めたものである。



第五部会——なお、以上の写真
のうちの一部は孝道教団にご提
供いただきました。

宣言

科学技術は目ざましい発達を遂げたが
人類の将来は必ずしも明るいものではな
い。すなわち地球資源の枯渇、公害によ
る汚染、人口の急激な増加に伴う食糧不
足は深刻な様相を呈し、人類滅亡の危機
が叫ばれるほどである。

われら仏教徒はあらゆる英知を集め、
人類の危機救済に役立つよう仏教の真髄
を現代に生かすべく具体的な諸方策を確
立し、菩薩道の実践に邁進することを誓
うものである。

右、宣言する。

昭和四十八年六月二十七日

第二十一回全日本仏教徒会議

全仏結成二十年記念池上本門寺大会

決議

- 一、われらは、アジアの開発と平和の確立のため、あらゆる努力を惜しまない。
- 二、われらは、環境の保全と福祉社会の建設に寄与し、一般社会の仏教に対する認識をただし、政治・経済・教育・文化の諸方面にわたって仏教精神が浸透するよう努力する。
- 三、われらは、従来の教団や寺院のあり方を反省し、新しい布教伝道の方法を工夫し、それぞれの特徴を生かして信仰を深めるとともに、つねに「仏教とは何か」という原点に立って全一仏教

運動を強力に推進する。

右、決議する。

昭和四十八年六月二十七日

第二十一回全日本仏教徒会議

全仏結成二十年記念池上本門寺大会

表彰者御芳名 (敬称略)

- (創立時における功労者) 藤本潮温・白山亮一・友松円諦・真溪義貫・常光浩然
- (副会長関係) 宮本正尊・羽溪了諦・山田豊林
- (理事関係) 太田淳昭・小野清一郎・栗本俊道・中山理々・長岡慶信・山本スギ
- 岡野正道・訓覇信雄・上野頼栄・松本徳明・片山日幹・杉谷義周・鶴飼隆玄・山田義道・清水谷孝尚・竹村教智・三原信一・平林宥高・小林大蔵・高辻恵雄・末広愛邦・野村宗春・宮前鳳洲・宮崎文輝
- 塚原徳応・菱輪英章・嶺藤亮・草津宣浩
- 下川弘義・豊原大潤・村上道隆・後藤憲
- 巖・佐藤覚雄・森本三鏡・山中浩文・竹内良恵・吉田秀映・華山恵光・立部瑞祐
- 釈秀伝・味岡良戒・田中隆恵・築山定誓
- 江西寛堂・神村拙底・中山通巖
- (県仏・団体関係)
- 朽木正己・高橋隆天・半田孝海・川田聖見・二十二鉄鏡・蒲池繁・松村寿顕・間野敬重・奥博良・村瀬良彦・熊野竜夫・大石好文・田中亮三・高峰秀海・松田照応・貝山宣泰・鱒淵正浩・春山定・松尾正真・松浦亮一・加納宗准・松平智禅・桜井栄章・津山玄道・都守泰一・信ヶ原

なお、本大会の宣言、決議文、表彰者
および物故者の芳名は次の通りである。

良文・石川隆輝
(専門委員関係)

北之内真竜・鈴木敏範・岡野貴美子・白川良純・椎谷健・塩入亮達・船口暉子・新美孝道・摩尼清之・伊藤道機・神野真一・久保登太清・能登宥兆・古屋道雄・壬生照順・金岡秀友・西義雄・山本芳邊板橋宥成・島田喜久子・阿部竜文・美濃部薫一・石上慈敬・中根専正・西村輝成
新川日見・村野宣忠・雲藤義道・五島行宣・藤井真水・伊藤完夫・紀野一義・早島鏡正・田中香浦・新谷寛応・小熊寛澄
三輪美津子・内山憲尚・長田恒雄・石橋益恵・近藤英雄・寺田康順・望月亮欽・細川量雄・岩本昭典
(局長関係)

石川存静・伊藤勝淳・黒田白純・稲田稔界・日野照護・熊谷雄幸・麻布照海・桜井大乗・新聞信雄
(全仏職員関係)
柳了堅・別所弘因・伊東堅純・阿部顯瑞
鎌田良昭・林恵智子

物故者御芳名 (敬称略)

拓植慈想・安藤正純・村山正栄・武村秀法・西沢浩仙・伊藤述史・重永潜・中原道昭・千々和宝天・木全大孝・宮谷法含
安田力・竹浪正義・仲井義照・小松淨祐
鷗昌清・佐々木泰翁・荒木昭定・宮崎栗雄・本多鉄磨・草葉隆円・田丸道忍・山田日真・清田寂垣・安藤寛・岩野真雄・高階瑞仙・朝倉睦瑞・古川大航・阿部竜

伝・北畠教真・増田日遠・草繁全弘・正力松太郎・草繁全宜・小野塚潤澄・中村貞元・来馬道断・渡辺真海・木下寂元・長井真琴・金剛秀一・大谷賢雄・安藤寿

雄・即真周湛・椎尾弁巨・小笠原義雄・松村謙三・中井竜瑞・藤井日静・倉持秀峰・里見達雄・星谷慶縁・狩野獲麟・石橋湛山・大谷盛潤・福井清俊

時代の要請にこたえるため

仏教徒アピール委員会設置

かねてから全仏機構改正委員会の答申にもとづき、全仏内にアピール委員会を設けるため準備中であつたが、第二十一回全日本仏教徒会議を契機として設置することになり、さる五月二十一日の理事

表し、正しい世論の育成に資するとともに、その適正な解決に努めることを目的とする。

会において正式決定し、委員および幹事は理事長一任となり、まず幹事を選出し、真溪義賢、白川良純、郡司博道、花山勝友、佐伯真光、摩尼清之、金岡秀友の七氏を幹事に委嘱し、さる六月二十日

第三条 この会は、全日本仏教会が推挙する九名以内の委員で構成し、委員の互選で代表委員を定める。

第一回幹事会を開き、規約案、委員候補の人選、幹事長の互選等を協議し、幹事長に真溪義賢師が互選され、事務の担当は国際文化局で扱うことが決められた。

第四条 この会は、代表委員が随時招集する。

規約および委員候補はつぎの通りで目下交渉がすすめられている。

第五条 この会に、事務を掌り、情報を蒐集するため事務局を置く。

仏教徒アピール委員会規約
第一条 財団法人全日本仏教会に、仏教徒アピール委員会(以下この会という)を置く。

第六条 この会の運営については別にこれを定める。

第二条 この会は、社会に生起する重要な諸問題について、仏教徒の見解を公

附則
第七条 この規約は昭和四十八年六月二十七日から施行する。

第二條 この会は、社会に生起する重要な諸問題について、仏教徒の見解を公

アピール委員
佐藤泰舜 梶浦逸外 金子日威
小野清一郎 竹村吉右衛門 細川隆元
今日出海 (交渉中)

暑中お見舞

曹洞宗宗務庁

管長 佐藤 泰舜

宗務総長 山田 義道

参 議 田 辺 哲 崖

参 議 宮 前 鳳 洲

総務部長 田 中 亮 三

教化部長 小 形 大 禅

財政部長 伊 藤 治 雄

社会部長 島 田 久 成

教学部長 糸 柳 格 道

広報室長 永 井 孝 道

秘書室長 大 竹 明 彦

東京都港区西麻布一丁目二二番四
永平寺別院内
電話〇三(四〇六)一六五一

暑中お見舞申し上げます

浄土宗宗務庁

〒005京都市東山区林下町四〇〇
電話(〇七五)五四一七三三

浄土門主 岸 信宏
 宗務総長 稲岡 覚順
 総務局長 松平 智禅
 教学局長 稲岡 法純
 財務局長 大橋 良憲
 社会局長 飯田 信弘
 總長公室長 滝沢 教夫
 宗務支所長 野村 宗春
 事務局長 梶原 重道
 企画部長 飯田 信弘
 庶務部長 中西 義雄

浄土宗開宗八百年記念慶讃事務局

日蓮宗宗務院

管 長 金子 日威

宗務総長 渡部 公允
 総務部長 三井 宣雄
 庶務部長 山口 寿雄
 教務部長 丸山 日雄
 新聞部長 長谷川 正徳
 護法伝道部長 藤山 英雄
 財務部長 松井 義海

〒143東京都大田区池上1-31-15
電話(七五二)七二八〇三

真言宗豊山派宗務所

〒112文京区大塚五丁目四〇一八
電話(〇三)九四五〇六三九(代)

管 長 長鳥 居敬誉
 宗務総長 築山 定誉
 総務部長 浅井 堅教
 財務部長 久保 埜太清
 教化部長 高山 有進
 教務部長 大沢 聖駒

弘法大師降誕千二百年
記念事業委員会

事務局長 吉田 俊誉

総本山長谷寺東京出張所
所 長 門屋 大寿

孝道教団

孝道山本仏殿

統理・大僧正
仏教哲学博士(スリランカ)
名誉哲学博士(中華民国)

岡野 正道

副統理・権大僧正
名誉哲学博士(中華民国)

岡野 貴美子

〒221 横浜市神奈川区孝道山
〇四五(432) 一一〇一

孝道教団東北別院

貫主・大僧正

岡野 正道

山形市小白川町釜山

暑中お見舞申し上げます

天台宗務庁

宗務総長 神原文祐
 教学部長 梅山円了
 社会部長 幹 覚盛
 庶務部長 守山俊朝
 財務部長 上野智信
 総務室長 上野智信

臨済宗妙心寺派

管 長 梶浦逸外
 宗務総長 江西寛堂
 総務部長 後藤純一
 教学部長 竹中玄鼎
 財務部長 梶田泰賢
 花園会本部長 原 英嶽
 法務部長 渡辺琢山

〒438磐田市城之崎 福王寺内

静岡県仏教会

電話 磐田二一五二三八
 会 長 田中亮三
 副会長 佐久間真忍
 同 海野泰邦

新潟県仏教会

会 長 土田真也
 副会長 井上憲司
 同 豊田良瑠
 同 西塔政舜
 事務局長 倉茂良海
 幹 事 広川芳雄
 同 富沢慶丸
 同 小島不二

〒336浦和市高砂四丁目一三一八

財団法人埼玉県佛教会

会 長 石川隆惇
 副会長 大島見道
 同 石塚大喜
 電話(〇四八八)六一二二三八

栃木県仏教会

会 長 黒田白純
 理事長 鱒淵正浩
 事務局
 宇都宮市材木町六の十一
 観専寺太子会館内

京都府仏教会

会 長 梶浦逸外
 副会長 澤崎梁寿
 同 渋谷有教
 同 横井鶴洲

財団法人 国際仏教興隆協会

名誉会長 佐藤泰舜
 会 長 賀屋興宣
 理事長 巖谷勝雄
 役員 一同
 〒153目黒区中目黒五十二四一五三
 祐天寺内
 〇三(七一一)七六〇八(直通)

暑中お見舞申し上げます

大本山永平寺

貫首 佐藤泰舜

副貫首 山田霊林

西堂 清水浩竜

監院 宮崎文輝

後堂 鎌谷仙竜

副監院 鈴木祖光

副監院 北野良道

単頭 川口常光

副寺 向大進

曹洞宗大本山総持寺

横浜市鶴見区鶴見一丁一一一
電話〇四五五八一六〇二(代)

貫首 岩本勝俊

副貫首 乙川瑾映

西堂 五十嵐顯道

監院 成田芳髓

待局長 村山道隆

後堂 筒井覚明

副監院 江口雪栄

大本山成田山新勝寺

貫首 松田照応

大本山川崎大師平間寺

貫首 高橋隆天

川崎市川崎区大師町四一四八
電話〇四四〇二六三四二〇(代)

東京本願寺

〒山台東区西浅草二一五十五
電話 八四三一九五一

住職 大谷光紹

輪番 伊藤哲雄

財団法人
日本仏教鑽仰会

理事長 中山理々

神田事務所
〒101東京都千代田区神田二丁三五
鎌倉ビル
電話 二五六一四九一一

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会長 大谷智子

副会長 一条智光

副会長 岡野貴美子

理事長 山本スギ

事務局長 船口暉子

事務所

〒156 東京都世田谷区
桜上水四一九一七

電話 (〇三) 三〇二一五九八

財団法人

全日本仏教尼僧法団

新宿区大京町三十一慈母会館
電話 (三五三) 〇四二四

総裁 大宮智栄

副総裁 花山院慈薫

〃 加藤真成

理事長 北川彌教全

副理事長 沢田教然

〃 梶山智弘

中国仏教協会へ親書をおくる

全日本仏教会では、中国仏教協会責任者趙樸初居士あての親書を六月二十三日訪中した日中遺骨送還代表団の菅原惠慶師に親書を託した。

菅原師は、北京広濟寺にある同協会へ表敬訪問の際に趙氏に手渡されたが、同氏は非常に喜ばれ近く返書がとどくことになっている。

親書の内容はつぎの通り
肅啓 貴仏教協会益々御隆昌の御事と慶賀至極に存じます。

このたび日中遺骨送還代表団の貴国訪問に際し、御挨拶を申し上げる機会を与えられましたことは、私のもっとも喜びとするところであります。

貴国とわが国との間に、昨年国交が樹立されましたことは、私共仏教徒にとつて誠に喜びに堪えません。

貴国とわが国との仏教のつながりは、一千有余年にわたってあります。

われわれ仏教徒として一時期においては、誠に遺憾なこともありましたが国交樹立を契機として、今後人事の交流をはかるなど仏教を通じてますます友好親善の実を挙げてまいりたいと念願いたしております。

特に、このたびの日本人遺骨の収集にあたり、貴国政府、中国紅十字会をはじめ

め各界の御仁授に対し、深甚なる感謝の意を表するものであります。

ここに仏日増輝のもと、貴仏教協会ならびに先生の御健勝を念じ上げ御挨拶といたします。

西曆一九七三年六月二十日

全日本仏教会会長

曹洞宗管長 佐藤 泰舜

中国仏教協会

趙樸初先生

中国死歿者追悼式

六月二十八日厚生省でしめやかに行なわる

中国大陸において終戦前後に死歿された軍人、軍属、開拓団、一般邦人の遺骨の調査を昭和三十五年に来日された中国紅十字会李徳全会長に当時の全日本仏教会会長故高階瑞仙禅師より依頼され、その後、紅十字会の手によって調査し判明された遺骨が中国紅十字会本社に安置されていたが、昨年九月国交正常化に伴い政府間交渉によって帰還が実現することになり、さる六月二十三日日中遺骨送還代表団（团长山口敏夫厚生政務次官）十

五名が出発、二十七日無事帰国された。



なお同遺骨の政府追悼式が翌二十八日午後二時三十分より厚生省講堂において執行され、全仏会長代理として柳国際文化局長が献花した。そのあと関係宗派、団体へ引渡された。

宗派関係では、大谷派、曹洞宗、妙心寺の三宗派で、それぞれ宗派の代表として大谷派より豊原勝友師、曹洞宗より伊藤治雄師、妙心寺派より来山泰龍師および日中宗懇の菅原惠慶師が代表団員として参加された。

(写真は厚生省での追悼式)

暑中御伺

真言宗智山派宗務庁

総本山 智積院

〒605 京都市東山区東山七条
電話 075-541-5361 一代表

管主 長 竹村 教智

宗務総長 寺務長 別所 弘因

総務部長 小沢 照禧

教学部長 岡田 昌道

法務部長 岡本 実良

教化部長 斎 隆套

宗務出張所長 小宮 勝憲

法要団員募集中

！既報の通り、インド日本寺の落慶式は十二月八日、全仏が主催して佐藤会長親下大導師のもと、インド国ギリ大統領も列席して厳修される。現在多少の余裕がありますので、ぜひ御参加下さい。

期日 昭和四十八年十二月三日、十六日
(十三泊十四日)

経費 金三十一万円

募集人員 四十名

締切日 八月末日

申込先 全日本仏教会国際文化局宛

韓国仏教図書館

仏書贈呈感謝録(五) 敬称略

栃木県仏教会

「日本仏教史論」等一五七冊

日蓮宗々務院

「国訳大蔵経」八巻等一三二冊

小計二八九冊 累計一〇四二冊

計報

福井清俊師(全仏・前組織局主事)

六月十九日午前四時五十分急性心不全

事務総局録事(六月)

のため遷化。三十五歳。三十六年四月から四十五年まで九年余にわたって全仏事務局に奉職、総務、組織局主事として活躍され、退職後、日蓮宗々立谷中学寮(浄延寺内)初代寮監に就任されていた。

一日 局内会議
六日 世界連邦宗教者大会(伊勢)出席

八日 局内会議
十一日 在京理事会 局内会議
十三日 大会打合せ
十四日 仏教徒アピール委員会幹事会
十五日 日宗連理事会出现
二十一日 大会打合せ
二十二日 局内会議
二十六・七日 全仏大会(本門寺)

インド日本寺落慶式
全日本仏教会主催法要団日程

日数	月日	時間	発着都市名	交通機関	摘要
1	12月3日(月)	12:30 20:15	東京発 カルカッタ着	A I /303	インド航空でカルカッタへ (カルカッタ泊)
2	4日(火)	10:55 13:10	カルカッタ発 カトマンズ着	R A /203	ネパール航空でカトマンズへ 着後市内を小観光してホテルへ(カトマンズ泊)
3	5日(水)		カトマンズ 滞在		(ご希望の方はヒマラヤ遊覧飛行へ)カトマンズとバクタンへのビンズー、ラマ、仏教寺院など見学 (カトマンズ泊)
4	6日(木)	12:00 12:50	カトマンズ発 パトナ着 パトナ発 ラジギール着	I C /246 バス	出発まで自由行動 インド国内航空でパトナへ 着後バスでパタリブトラ跡、ナーランダ大学跡を見学して、ラジギールへ (ラジギール泊)
5	7日(金)		ラジギール発 ブダガヤ着	バス	早朝霊鷲山々頂で眺天参拝 竹林精舎、ピンピサラ王幽閉の跡など見学 バスで成道の地ブダガヤへ (ブダガヤ泊)
6	8日(土)		ブダガヤ滞在		ギリ大統領の臨席を得て、 インド日本寺落慶式厳修 (ブダガヤ泊)
7	9日(日)	14:20 19:40	ガヤ発 ムガールサライ着	129列車	大塔、尼蓮河参拝 午後、列車でムガールサライへ バスでベナレスへ (ベナレス泊)
8	10日(月)	23:25	ベナレス発	列車	早朝ガンジス河で沐浴見学 初転法輪の地サルナート参拝 ベナレス市内見学、ピンズー大学等夜行列車でゴラクプールへ (車中泊)
9	11日(火)	05:22	ゴラクプール着 クシナガラ 滞在		着後涅槃の地クシナガール参拝 涅槃堂等 (クシナガラ泊)
10	12日(水)	10:00 12:20 18:16 21:37	ゴラクプール発 ノーガル着 ノーガル発 バルランプール着	列車No.183 列車No.185	列車でノーガルへ 降誕の地ルンビニ参拝 再び列車でバルランプールへ(バルランプール泊)
11	13日(木)	15:00 18:00 20:40	ゴングラ発 ラクノー着 ラクノー発	列車No.1 急行	祇園精舎、舍衛城跡参拝 バスでゴングラに出て、列車でラクノー経由アグラへ (車中泊)
12	14日(金)	09:52 16:25 17:00	アグラ着 アグラ発 デリー着	I C /408	着後タジ・マハール、アグラ城、アジア救ライセンター訪問、インド国内航空でデリーへ(デリー泊)
13	15日(土)		デリー滞在		終日 ニューデリー、オールド・デリーの見学 (デリー泊)
14	16日(日)	07:45 22:40	デリー発 東京着	A I /310	インド航空310便でデリー発 帰国

昭和四十八年七月二日発行
七月号 第一八九号

発行人 柳麻布 了照 堅海

発行所 財団法人

全日本仏教会

東京都台東区西橋草一ノ五ノ五(東京本願寺内)
電話〇三(八四三)六三三 四一、三